

病院最前線シリーズ

病院最前線

2018

西日本新聞 2018年(平成30年)7月1日 掲載

医療法人社団 研英会

林眼科病院

九州・沖縄に多い眼疾患と
白内障・緑内障との関連

九州・沖縄に多い眼疾患と 白内障・緑内障との関連

運動機能と同様、「眼」の機能も加齢によって徐々に低下し、疾患のリスクが高まっていく。高齢者に多い眼疾患として、白内障や緑内障などが知られているが、九州・沖縄地区ではそれ以外にも、発症率が高い加齢性の眼疾患があるという。「きちんと見える」機能を、高齢になっても維持する方法について、林眼科(福岡市博多区)の林研院長、吉村浩一副院長、吉田起章外来医長、真鍋伸一病棟医長、平田憲手術部長に尋ねた。



林眼科病院 外来医長

吉田 起章 氏



林眼科病院 副院長

吉村 浩一 氏



林眼科病院 院長

林 研 氏

「見え方」の異変に気づいたら、まずは眼科医へ

九州・沖縄で有病率の高い 3つの加齢性眼疾患

九州・沖縄に多いという眼疾患について教えてください
林 白いフケ状の物質が、前眼部を中心に沈着・蓄積する「落屑症候群」、眼内を循環する房水の排水孔がある虹彩と角膜の隙間の隅角が狭まる「原発閉塞隅角症」、異常な結膜が角膜表面まで入ってくる「翼状片」の3つです。

真鍋 落屑症候群は遺伝性の疾患で、年齢が上がるごとに

有病率が高まります。岐阜県多治見市で行われた『多治見スタディ』と呼ばれる大規模調査によると、40歳でこの疾患が見られる人は、調査対象者の0.8%でしたが、80歳になると3%に増加しています。一方、福岡県粕屋郡で行われている『久山町



林眼科病院 手術部長

平田 憲 氏



林眼科病院 病棟医長

真鍋 伸一 氏

研究」では、50歳時点での有病率が3.8%と、明らかに九州の方が高いのです。

吉田 「白いフケ状物質」に見える落屑物質は、ミクロフィブリルという小さな線維状の組織ですが、これが水晶体囊（水晶体を包む袋）を支える「チン小帯」周辺に沈着すると、チン小帯が弱くなります。

白内障の手術は、水晶体囊内の内容物を破碎して吸引し、そこに眼内レンズを挿入しますが、チン小帯の脆弱化が進んでいると水晶体がグラついて、手術の難易度が高くなります。虹彩に沈着していることも多く、瞳孔が開きにくい状態になるので、手術には特殊な器具が必要なのです。

平田 加齢に伴ってチン小帯が著しく弱くなる場合、何らかの刺激でチン小帯が切れ、一旦挿入した眼内レンズが数年後にずれてしまう恐れがあるため、眼球壁の強膜に「眼内レンズの支持部（足）」を固定することもあります。

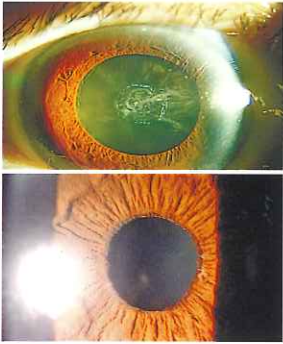
「落屑が「チン小帯」以外に沈着した場合も、何か悪影響がありませんか

林 一般に「黒目」と言われる眼の表面の角膜は5層構造になって

いるのですが、その一番内層の部分に落屑物質が沈着すると、角膜内皮細胞が傷害されます。

特に、白内障や緑内障で複数回の手術を受けている人は、内皮細胞も傷んでおり、角膜にやけどの跡のような水疱ができる「水疱性角膜症」を発症することが少なくありません。そうになると、角膜が濁って見えにくくなったり、強い痛みを覚えたります。そうになると、現在は角膜移植しか治療法はありません。

一方、落屑物質が隅角に沈着すると、房水の排水孔につまるために眼圧が上昇し、緑内障のリスクが高まります。九州では落屑緑内障の頻度が高く、徐々に進行して手術が必要になる場合が少なくありません。先述のように、落屑緑内障は、手術難易度の高い白内障や角膜内皮の脆弱性も伴うので、長期的に色々な手術が必要になることが多く、視力の維持に難渋することが多いです。



落屑症候群
水晶体前面(上)、瞳孔縁(下)

「房水」の出口の閉塞で
緑内障の危険性が上昇

「原発閉塞隅角症」は、どのような疾患ですか

平田 眼球のサイズが小さい人は、相対的に水晶体が大きいため、隅角という隙間が狭めます。

皮膚の表皮細胞が、常に新しく増殖して新しい皮膚に変わるのと同様、水晶体の内側の上皮細胞も増え続けているのですが、皮膚と違って閉鎖されている組織ですから、年齢とともに水晶体は大きくなります。そうになると、隅角の隙間はさらに狭くなり、急に眼圧が上昇する「急性緑内障発作」のリスクが高まります。

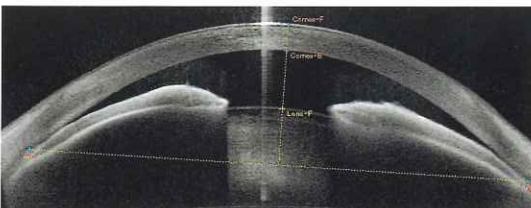
前述の多治見スタディによると、40歳以上の閉塞隅角症有病率は0.6%でしたが、久米島で行われた調査では、同年代でも2.2%。この疾患は東アジア全体で多く、環境や遺伝的な背景があるものと思われれます。

吉村 原発閉塞隅角症による緑内障発作の予防法としては、従来はレーザーで虹彩に穴を開け、房水の流れを確保する方法がありました。ただし、それだけでは徐々に緑内障が悪化する可能性が否定できません。そのため近年は、厚すぎる水晶体を摘出する白内障手術を行う

治療のほうが根治的だと考えられています。水晶体が厚すぎることが閉塞の原因ですから、薄い眼内レンズに交換してしまうわけです。

真鍋 原発閉塞隅角症は、ある日突然、房水の流れが遮断され、「急性緑内障発作」を起こしやすい疾患です。急性発作を起こした場合、まず、閉塞部分を解放するため薬物治療を行います。その効果が十分でない場合や、いつまでも続かない場合もあります。レーザー治療の選択肢もありますが、やはり根本的に排水孔を広げるには白内障手術の方が有効です。

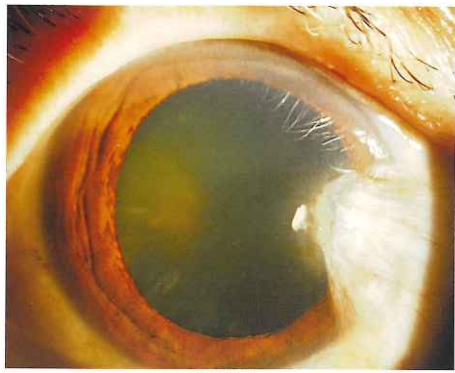
ただし、発作を繰り返していた患者さんの場合、隅角が癒着閉塞していることもあるので、その場合は白内障手術に隅角癒着分離術を併用します。



急性原発隅角閉塞症(急性緑内障発作)光干渉断層計像

40歳を過ぎたら眼科での検査を

海辺に住む人に多い
「翼状片」
白内障との同時手術も



翼状片

「翼状片」についても教えて下さい
林 異常な結膜(白目の表面の膜)が角膜表面にまで入り込んでくる疾患です。進行すると角膜表面が歪むため、不正な乱視を引き起こします。
根本的な原因は不明ですが、紫外線との関連が指摘されており、九州の中でも海に面した唐津周辺に多いことが判っています。

吉田 真珠の養殖が盛んな対馬でも有病率が高いので、紫外線が原因の1つであることは間違いないでしょう。

放置すると乱視だけでなく、眼の表面の違和感や強い眩しさも感じられるようになるので、角膜に入り込んでいる翼状片を除去する手術をお勧めします。単に除去するだけでは再発する可能性が高いため、下方から正常な結膜を持ってきて、除去した欠損部に縫い付ける手術を行います。

吉村 結膜が瞳孔にかかるまで放置していると、手術しても視力が回復しにくくなるので、見え方に異常を感じるようになったら、早めに眼科専門医を受診して下さい。

その際、白内障を併発していれば、同時手術をお勧めします。翼状片で角膜が歪んでいると、眼内レンズの度数を決めることが難しくなるので、同時手術に慣れている眼科医と相談することが肝心です。

自覚症状が何もなくても
40歳を過ぎたら
眼科での検査を

「高齢になっても良好な「見え」を維持するには、どうすれば良いでしょうか

林 落屑症候群はゆっくり進行し、気づかないうちに眼が様々なダメージを受け続けます。40歳を過ぎたら少なくとも1回は、落屑症候群、特に緑内障の有無を検査するようお願いします。

平田 急性緑内障発作は強い頭痛や吐き気、充血などを伴うため、脳卒中と勘違いして脳神経外科等を受診し、手遅れになる人も少なくありません。原発閉塞隅角症の有無も検査しておくべきです。

林 白内障の手術手技や器具は年々進歩しており、眼内レンズも色々と工夫されています。特に、多焦点レンズでは近・中・遠の3焦点タイプ、乱視を矯正するトーリックレンズなど、バリエーションが広がっています。

緑内障に関しても、点眼薬の種類だけでなく、新しい手術法が増え、ひと昔前までなら諦めていたような症例でも治療できるようになりました。とは言え、いったん機能を失った視神経を再生させることはできません。全国の統計で、40歳以上の約5%は、多少なりとも緑内障の症状を持っていることが判っているのです。自覚症状が無くても、40歳過ぎの眼科検査をお忘れなく。

林眼科病院

電話 092-431-1680

住所 福岡県福岡市博多区博多駅前4-23-35

休診日 日曜・祝日

診察時間

時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	—	—
13:30~17:00	○	○	○	○	○	—	—	—

